



石神台

防災かわら版

石神台自治会防災部
自主防災委員会

74号 広報班

令和4年3月

99年前の関東大震災⇒その時大磯は…

— 被災の歴史を教訓に今を考える —

東日本大震災の「3月11日」がやってきました。大磯町は幸いにも大きな被害が出ませんでした。99年前に発生した関東大震災では大きな被害が出ました。状況はどうだったのでしょうか。当時の助役の業務日誌と古老からの聞き取り調査記録から被害状況を拾って見ることにします。

大地震は大正12年（1923年）9月1日午前11時58分頃発生。

震源は相模湾北部。大磯町の震度は7と推定されます。

当日は前の晩より大雨が降り、午前10時頃には雨は上がって少し湿度が高い状態でした。

列車の転覆：東京行きの列車が駅を出てまもなく脱線転覆。

8名が即死、重軽傷者36名の大惨事になりました。

海の状況：海水が一斉に引き兜岩まで地続きになった。津波

は沖を平塚方面に襲来して行き被害なし。大磯海岸には来なかった。（理由は不明）

海岸の隆起：2mほど隆起。海岸防波堤と漁船の引上げ場が破壊された。

建物の倒壊・破壊：旧大磯町では、駅舎、小学校が倒壊、道路と多くの橋が破壊した。国府地区では

は家屋の約8割に被害が出、特に西久保地区では、23軒中倒壊を免れたのは4軒のみでした。

人的被害：死者58名、負傷者数は多数で詳細不明。

火災：火事の発生なし。朝方の大雨で農作業を止め、「1日正月」（1日と15日は農作業を休日とする習慣）で早めの昼食をとり地震発生時には火を使用していなかったようです。

救 援：町ではテントを張って炊き出しや簡易宿泊に供していた。県外

の静岡県からも米、味噌、醤油、梅干しなどの救援物資を受けた。

復 旧：町は、破壊施設の復旧のため「復旧委員会」を立上げ復旧工事を

を実施。海水浴場施設も営業と収入のため翌年には復旧・開設した。などなど…。

⇒海の状況や海岸の隆起、建物の倒壊など、教訓になりそうです。

《出典「大磯町助役日誌」「むかしがたり—古老が語る大磯の災害—》

簡易デジタル無線機の管理要員募集！

自治会では災害時の通信手段のため「簡易デジタル無線機」を所有しています。東日本大震災の際には、当地区でも固定・携帯とも電話回線がアクセス集中により使用できない状態になりました。

こうした事態に備えるために、自治会正副会長、防災担当街区役員、民生児童委員等に所持して貰っています。所持者は「気象警報」等が発令された場合にはスイッチを入れて「連絡待機」しています。また、防災委員を兼ねるガーディアン団員も巡回の際に使用に慣れるよう所持しています。

この「簡易デジタル無線機」の登録・管理などに複数の要員が望まれますが現在1名です。お手伝いして頂ける方を募集しています。応募、推薦を宜しくお願いします。

⇒ ⇒ ⇒ 自治会長まで是非ご連絡ください。



大磯町の惨害（大磯町史編纂『震災記録』）

にここマークは無事の印
訓練日みんなで出そう黄色旗

毎月の第1土曜日 午前中



4月は2日
5月は6日
です。
「いざ」とい
う時にあわ
てない訓練
をしよう！